

令和4年度特別展

# 玉井家・吉田家・杉山家

～人の望みと喜びと～

不思議なくらい縁がある家が  
3家あります。

港町芦屋を軸に、日本史上に  
残る活躍をした3家の不思議  
な縁を紹介、展示します。

令和5年

1月11日(水) ▶ 5月7日(日)

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
※月曜休館、月曜祝日の場合翌平日休館

入館料 個人：中学生以上 200円・小学生100円  
※町内在住の小中学生は土曜日無料

団体：中学生以上 100円・小学生50円  
※団体割引は15名以上

芦屋歴史の里・芦屋釜の里共通券  
中学生以上 300円・小学生150円

芦屋歴史の里  
(芦屋町歴史民俗資料館)

〒807-0141

福岡県遠賀郡芦屋町大字山鹿 1200

Tel: 093-222-2555 Fax: 093-222-2957

令和4年度特別展

# 玉井家・吉田家・杉山家

～人の望みと喜びと～

不思議なくらいに縁がある家が3家あります。

今回の特別展で注目しているのは玉井家、吉田家、杉山家です。このお話は、明治初頭の芦屋湊から始まります。

杉山家当主、杉山三郎平は高い教養をもち、藩主にも直接意見する剛直な黒田藩士でしたが、明治になると自分から禄を返上し、信頼できる人物がいた芦屋に移ります。長州との外交交渉を秘密裏に芦屋で行っていたことからの人脈です。

三郎平は幼少の息子、茂丸を伴い農業や漁業の手伝いをしながら暮らしたようです。茂丸は、後年自著に芦屋での幼少期は猛烈にいたずら小僧であったと書いています。その幼い時代、いたずら仲間・竹馬の友であったのが吉田磯吉でした。後年二人は東京で再会します。磯吉は九州若松の顔役・国会議員として、茂丸は政財界の指南役的

黒幕としての再会でした。二人の活動は裏に表に広がりました。その中には国家的難問題を未然に防ぎ、世間の耳目を集めたものもありました。

玉井家と吉田家も不思議な縁があります。玉井金五郎と妻マンは、若松で仲士なかしとして活動し、やがて自分の組「玉井組」を設立します。磯吉は直接的な関係ではありませんが、若松の顔役として港湾労働にも大きな影響力を持っており、玉井組とも軋轢あつれきがあったようです。

金五郎の息子、勝則は長じて作家となります。ペンネーム「火野葦平ひのあしへい」で国民的人気作家となります。代表作『花と龍』は何度も映画化され、その作品の中で磯吉は本名のまま「吉田の親分」として登場します。ある時は金五郎の前に立ちふさがる壁として、また手を

差し伸べる存在として。作中の人物描写の陰影は、磯吉の息使いを今に伝えそうなほど巧みなものでした。

玉井家と吉田家の関りは次の世代にまで引き継がれます。葦平の弟、玉井政雄は、大任侠兼政治家の磯吉と牧師兼政治家の敬太郎、親子二代に心惹かれ、綿密な取材調査の末『刀と聖書じょうし』を上梓します。

次は杉山家と玉井家の縁についてです。杉山茂丸の孫、龍丸は戦後私財全てを投げうって、貧困と飢餓に苦しむインドのために、国土緑化に奔走します。この事業の精神がスタッフに引き継がれ、中村哲医師のアフガン人道支援へ繋がるのです。中村医師の母方の叔父にあたるのが葦平です。玉井家の家訓「困っている人を助ける」が国際的人道援助にまで繋がっているのです。

港町芦屋を軸に、日本史上に残る活躍をした方々の書籍や遺品などから、三家の縁を繋ぎます。

## ギャラリートーク

全3回 定員各20人(事前申込先着順)

各回午前10時～11時

講師：学芸員 山田 克樹

第1回

令和5年1月22日(日)

テーマ：明治の芦屋・日本・世界

申込受付期間：1月15日(日)～21日(土)

第2回

令和5年2月26日(日)

テーマ：綺羅星の如く、英傑現る

申込受付期間：2月19日(日)～25日(土)

第3回

令和5年3月26日(日)

テーマ：緑の大地を夢みて

申込受付期間：3月19日(日)～25日(土)

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、ご来場の際はマスク着用にご協力ください。

また、混雑時には入場を制限することがあります。なお、感染状況により、臨時休館や展示期間を変更する場合がありますので、詳しくは芦屋町公式ホームページをご覧ください。(https://www.town.ashiya.lg.jp/)